



## 平成15年度中間調査報告

理事長 齋藤 謹也

平成15年11月5日より12日ネパール調査報告です。

### (1) 現地治安状況の把握

- ・ヌルブ・ラマ氏（全工程案内、現地責任者）の話
  - ・神保氏（ネパールの風）事務所兼宿舍訪問
  - ・ネパール大使館訪問、公使及び担当官と面会
  - ・マズワニ村役場一部屋根爆破現場を見学
- ・シリ・スンディ小学校マオ派赤字落書きによる警告文
  - ・タンセン、教育関係者（10名）と面談
  - ・タンセン-ポカラ間の警察署の全署員が逃亡（3ヶ所）、検問の強化、宿舍を背に常時銃をかまえている軍隊を見る。
  - ・バイワラポカラ空港カトマンドゥ空港の厳戒態勢
  - ・カトマンドゥパドマカニヤ女子校の現状給料2ヶ月間遅延、経常維持費が国よりこない、治安対策最優先の為）等



以上の視察、面談を通じ、かなりマオイストの浸透ぶりがうかがえ、国民は漠然とした不安感、脅威感を身近に抱いているようである。ただ、外国人旅行者はアメリカ人以外は現在のところ目標としていないようである。トレッキングにおいても、入山料（外国人1000Rp、ガイド200Rp、ポーター100Rp）を支払えば安全を保障されるという（アンナプルナ山郡に500人のマオ派入山）欧州人（ドイツ、フランス等）の老人旅行者が目立っている。日本人は少なくなっているようである。（但し往復便は満席）ルンビニ地

区は特に公園西部が危ないようでカピラ城付近にはいけない状況（従ってユネスコ開発は、当初の公園西部地域の建設予定が東部地区に移動して行われている。

### (2) コミュニティーセンター現状調査

当初予定していたマズワニ村村役場周辺については、ユネスコによる成人学校（野菜栽培指導など）校舎建設、郵便局建設基盤整備、トイレ建設予定地などがすすみだしている為、会見したマズワニ村村長も当方の計画については興味を示さず、従って無理と判断した。次に予定を街道沿いのスンディ小に変更して調査したが、残念ながら学校休校の為校長等とは会えず、今後ラマ氏が一週間後再訪して調整することのこと。マオイストの赤字の文章が校舎に書かれてい

る状況からして（手直しすると報復をうける）管理人の配置を含めてルンビニ地区へのコミュニティセンター設置は時期尚早ではないかとの印象です。但しラマ氏と村当局の話し合いによる調整を待つて理事会において判断する必要性があると思われる。

### （3）教育研修の現状調査

マズワニ小・中学校、ルンビニ小学校、シリ・シリ・ラム小学校を訪問し、教員生徒と若干の触れ合いをする。又、他の既成援助校も訪問（但し休日の為休校）、全体の意見再確認はできず、タンセン地区研修についてはセン小学校校長モホン氏とも会見したが、受け入れ姿勢については変化なし。タンセン地区についていつもの宿舎でなく街の中にあるホワイトレイクホテルに実際に宿泊してみた。日本人観光客には無理そうであるが、現地にとっては良いホテルといえるようである。ルンビニは午後8時、タンセンは午後9時以降外出禁止。

### （4）シリ・ジャナ・ジョーディ小学校視察

今回の視察ではカピラ城周辺危険の為行けず。

・マズワニ村役場グタバワル村役場シブワ村役場同時爆破（約半月前）

・マオイスト寄付要求、教員には1ヶ月分の内一日分給与徴収。カピラ城周辺には全く入れない状況との報告。

公園南部であるが、ルンビニ県アダルサ村のアマリ小学校より支援要請、既存校舎1棟、5教室1職員棟が希望であるが、とにかく少しでも建設して欲しいとの熱い要望を寄す。

全くカーストの低い貧しい村の為建設が出来ず、国の援助もない。子ども達は青空教室が常態であり、就学率は三割程度である。ほぼ公園東部地区の学校支援は山を越しているため、是非とも南部のインド国境に近い村の教育支援をと要望される。必要と判断されるが援助地域の拡大については今後検討されなければならない。

他に公園南西部街道隣接のパラリア小学校を見学。校長は元マズワニ小学校校長であり、生徒数約150人、教師4人、既存校舎2教室の雨漏り修復工事をして欲しいとの要望を受ける。以前より当会と接触を望んでいたとの事。



### （5）その他の支援等の確認

（イ）図書等支援各校別配分金の検討

タンセン地区はトリヴァン大学タンセン校学長をはじめ、教育関係者との会合の際、例年と同様にリクエストを出すように当初より要望。トリヴァン大学タンセン分校の新旧学長より発電機を要望される。（後日カトマンドゥで調査、6000W30万円の予算が必要）学生の増加（在籍3000人）もあり朝6時から夕方7時まで授業。朝夕の電力不足による停電もあり、困難をきたしているとの話があり、2-3年分をまとめてでよいから是非とも支援をとの強い要望があった。必要性は高いと判断している（学長は9月に交代）

（ロ）既支援校重点補修事業の確認

- ・シリ・マズワニ小東側校舎1教室分、かなりひどい亀裂、建設地に元埋め立て部分があり陥没したのではないかと。の事。
- ・シリ・シリ・ラム小・中学校校舎建設と聞いていた2教室は未だ認可されず卒業生はマズワニ中学校へ進学。
- ・記念植樹は育っていない。

#### (八) 保健センター支援内容制服購入の件

保健センター支援については今回の調査では要望等確認できませんでした。(村長が葬儀に参加の為面談は小時間)マズワニ中学校の制服は1年生分依頼しました。



マズワニ中第一期生の三年生は皆体も大きくなり随分成長したように思われる。マズワニ中学のこの地区での重要性はますます高くなっているように感じられた。すっかり定着しているようである。

#### (二) 写真展実施の確認

実施は可能と思われませんが、今回の中間調査では確認出来ていません。

#### (6) ラマ氏結婚式日程の確認

#### (7) その他の特記事項

- ・ 水害によるポカラ-カトマンドゥ間は陸路では12時間かかる。
- ・ マオイストとの調整が難しく、派の要求もよく分かっていない現状である。
- ・ シマルの木、ホタルの木をみる。約4ヶ月間ホタルは見られるとの事で、数は少なかったがホタルを確認することが出来ました。
- ・ ルンビニ全体の高級ホテルにマオイストは100万円を要求。
- ・ マズワニ中学校の運営委員会理事長マイトリ上人がユネスコ施設誘致に深く関与している模様。マイトリ上人が作ったオフィス2-3棟が爆破された。
- ・ ある1校でサッカーボール等を子ども達で使って欲しいと校長に渡した事があり、それは翌日市場で売られていた事があるとの情報。やはり子どもに直接渡さないといけないとの確認。

## 「ソバ粉のクッキー」

今村 旭

11月11日は私の誕生日だ。今年で67才になった。67才という事は、昭和11年11月11日で、11が3つ並べばという事で誠に覚え易い。そんな事で、不肖私の誕生日を覚えて下さる方が何人かおられます。うれしい事にこの年でバラの花束をもらったり、遠方からの電話をもらったりと結構賑やかです。しかも女性の方々から。

今から7年前の丁度還暦を迎えた頃のこと、当時POPビルに在った高原書店の一室で、ネパール・ミカの会のバザーが開かれていた。60才を境に、「仕事ばかりの人生もどうかな」と考え、仕事以外の何かを漠然と探していた時であり、そんな時、偶然にもバザーに入り込んでしまった。室内に入ると壁面にネパールの写真、机の上におなじみの民芸品が並べられていた。客はあまり居なかったように記憶している。当番とおぼしき男性がポツンと座って居り「良かったら食べてみて下さい。ネパールからの土産のソバ粉のクッキーです。どうぞ」。この当番の男が実は坂さんだったのです。喰い逃げし難い雰囲気です。いろいろ話を聞いてしまった。自称、義理堅い性格が災いしてしまい、そのまま立ち去り難く「これは何か買わねば帰れないな」と色々買ってしまった。何やら知らぬが買った物を自宅でみているうちにネパールに興味を湧き、何故か連日会場に行ってしまった。最近政界では「毒まんじゅう」を喰ったどうのこうのとニュースになっていたが、私の場合は「ソバ粉のクッキー」を喰ってネパールとの縁が出来、結

果としてネパール・ミカの会に入会してしまった。クッキーを喰わなければ、今頃ヒマを持って余していたに違いない。

還暦後も、仕事は続けているし、他の活動もしているし、病気はするし、ミカの会も忙しいし、余生をのんびりなどはまだ相当先の事になりそうだ。

さて、ミカの会も大石トキさんや沼野和子さん等々先輩会員が本当にお元気で活躍して居られ、心から敬意をもって居ります。我々もまだこれから健康に注意して、会の活動に楽しく参加出来ればと願って居ります。 ソバ粉のクッキーを又食べましょう。

## はじめてのネパール

大谷 安宏

15年くらい前のことだったと思う。今頃の季節だったろうか？先輩と二人で北穂高の東稜を気分よく登り、涸沢を降りながらの会話で「エベレストを見てみたいなあ」「行きたいなあ」「行こうか」「行こうぜ」。目標はエベレスト、ローツェ、ヌプツェに囲まれたプモリの支尾根のカラ・パタール標高5545m、大地に足を付けて、見上げるエベレストだ。メンバー4人は同じ企業の山岳部であり、冬休みを含めても20日間の休暇は職場への遠慮もあったが、ツアーの往復航空機のみ利用することで話をつけた。香港での駐在同僚よる壮行会、ビクトリアピーク、スタンレーベイなどの観光もこれからの未知への地への一抹の不安と期待で一杯だった。

カトマンドゥの空港には当社の代理店社長、先輩の知人で旅行会社勤務の女性などによるレイの大歓迎に同行ツアー客の羨望的だった。トレッキング・パーミット取得には2日間を要し、王宮通りのホテル・シェルパを宿にカトマンドゥ市内、バクタプル巡り、冬至の夕日のカカニの丘、朝日のナガルコットからの始めてのヒマラヤの峰々の壮大さに感動感激の連続だ。

空港は大変な込合いで、ルクラ便は天候が悪く5日間飛んでいないとのことであったが、幸いにも1番機に乗り込めた。刻々と迫りくる白銀の峰々のなかに黒々と一段と高く聳えるエベレストに眼は点になる。岩山の中段に申し訳程度のルクラの滑走路は傾斜つきの未舗装で砂塵をあげて着陸安堵。サーダーはエベレスト遠征隊にも参加したガイドのカルマ・ガルツェン、サブに息子のラクバ、コックのサルサと娘、美人姉妹のキッチンガール、ヤク使いのおばさんと若者、そして先輩と二人のプライベートポータのスナムに兄のラクバの8人とヤク2頭が加っての大部隊の登り7日間降り3日の予定だ。

緩やかな登り下りでパグディン泊。ドゥードゥ・コシ川沿いに辿りジョルサレでパーミットのチェック、ヒラリー寄贈の釣橋を渡り、急な登りを右へ廻りこむと、クンピラの岩肌に張り付いたように懼れのナムチェバザール標高3440mが視界に広がる。毎週土曜日に遙かチベットの人々との交易の市が賑わい、今でも生活物資の物々交換が見られる。母の首飾りアマダブラブ、獅子が横たわる姿のカンテガ、幾つもの先鋒を持つタムセルクなど7000mを超える白く輝く峰々との標高差4000mと豪快に落込む氷河は圧倒され、まさに神そのものだ。ナムチェから急な登りを廻りこむと一気に視界は開け、偏西風に頭を突っ込み東に雲を靡かせ、雪をも寄せつけない急峻な黒い南壁をもつサガルマータ(エベレスト)が、見事なイエローバンドを横たえたローツェ、ヌプツェを従え堂々と聳えている。右手にはマカルーか？一気にブンキに降り、ゴーキョへの道と分れ、長い登りを登り切ると大きなゴンパのあるタンボチエ標高3867mで既に富士山より高く、激しい動悸に高山病の不安がつる。サガルマータを望む高台には幾つもの遭難慰霊碑。その中には登山家加藤保男と小林利明のものもある。ここで静養と500mほどの高度順化のため一日停滞。ここから先は玉山(新高山)3997mを

超える未体験の標高がつづく。朝、「グッドモーニング サー」と美人姉妹が紅茶を持って天幕に起しに来る。飲み終える頃に洗面器にお湯を入れ運んでくる、顔を洗いさっぱりし、朝食を済ませる間に天幕を撤収され荷物整理して先に出発する。サーダーは常に一行の体調に気遣い「ビスタリ、ビスタリ」、朗らかに気分を盛りあげる。スナムは前後に我々のザックを背負い脇を歩く、ちょっと照れやでかわいい少年だ。寒さの割には粗末な服装に予備の帽子、手袋、ウインドブレーカーと与えてやる。すっかりお互いに気心も知れ、チームワークも最高。先発隊は昼食を準備して待ち、宿泊地ではテントを張り、夕食の準備をしながら笑顔で迎えてくれる。

ペリチェ標高4252m。ここにはヒマラヤ救助協会の診療所があり、欧米人医師がシーズン不定期駐在しているが、高山病にかかれば下山しか有効な処置はない。4000m超えた不安が増す。互いが表情の観察と自己判断しかないが、どの程度の動悸、息苦しさ、頭痛まで絶えるか、限界はどこかの判断は難しい。300m高度順化。寒い。

そそり立つ褐色岸壁に挟まれたクーンブ・コラーの凍てついた河原の遥か彼方にチョー・オユー(8201m)が望め、ひたすらに登る。トゥウラで干したヤクの糞を燃料に熱いチャイで休息。クーンブ氷河をロブチェの小屋標高4930mへ入る。ニュージーランドからの二組の親娘の一ヶ月間のトレッキングに自然の親しみ方のスケールの違いを痛感する。

驚くほどの星の数のもと厳寒のなかクーンブ氷河を慎重に登る。標高の高さからの高山病の可能性と下り坂の天候に備え、早出とスピードアップが要求されるが苦しい。最終日は高い所に長居は出来ない。ゴラクシェ標高5150mを過ぎると、前方のプモリはますます大きく聳え、その白い壁の直下がめざすカラ・パタールだ。最後の急な岩尾根からは、眼下の氷河に無数のセラックとその先にエベレストベースキャンプが臨める。中国側からの風が眉毛を凍らせる。

1990年12月31日午前10時30分、年齢順に順番を整えてカラ・パタール標高5545m登頂。感激の握手、バンザイ。サーダーもスナムも大喜びだ。スナムも初めての高さだそうだ。サガルマータは黒いピラミットとなって、圧倒的な迫力でそそり立ち迫ってくる。ヌプツェは鋭さを増し、プモリはいやがうえにも高い。やっとここまで来ることが出来た。仲間のお陰だ。家族のお陰だ。今日は大晦日だ。家族は新年を迎える準備は済ませたろうか。強風に流れた涙が眼鏡のツルに凍りつく。日本はどっちだ。両手をあげて「やったぞ～オ」

降り始めると吹雪となり、瞬く間に積りだす。やり遂げた充実感に包まれ快調にタンボチェまで降る。積雪のため小屋泊りとし、早めに粗末なベッドに横になる。言い知れぬ充実感と安堵感。まさにここは天国だ。隣のベッドで靴を脱いだスナムの靴下は底が全く無く、足が飛び出したのを見て、親子で大笑いしている。翌朝、スナムにスペアの靴下を与えたが、まもなくサーダーが与えた靴下を手に「ありがたく頂く、我が家にはもっと痛んだ靴下の者もいる。父親として公平にしたいので俺が預かる」。隣でスナムがニコニコと笑っている。考えさせられる素晴らしい家族愛だ。このような事が当たり前に行われているとしたらネパール人は素晴らしい。翌日、晴れ上がった太陽に銀世界が眩しい。この時期こんな積雪は珍しいらしい。途中ルートを変更し、憧れのエベレストビューホテルのテラスでのコーヒーで一服も忘れがたい一時だった。

ルクラへ降る道すがらサーダーが歌い出す。ネパールで一番ポピュラーな歌を乞うと『レッサンフィリー、レッサンフィリー』と乗りがいい。やがて皆で『レッサンフィリー、レッサンフィリー』と。お返しはちびまるこちゃんの歌。『ピーシャラ、ピーシャラ、ラッタ、タラタラ、ピーシャラ、ピーシャラ・・・』と。やがて全員の歌声が山々に木霊していた。ドットーコシの遥か対岸中腹にこの家族の家がある。留守番役の奥さんに父子で『アーマー、アーマー』。我々も大声を合わせて『アーマー、アーマー』。

ルクラ近くの民家の庭にニワトリが遊んでいる。正月用に持ってきた切り餅を思い出し、今夜は世話になった全員呼んでさよならパーティーをやろう。ニワトリ2羽を調達、もも肉を一本かまどで焼き、内緒で先輩と試し食い。う～うん美味しい。有り合わせの野菜に醤油仕立ての雑煮は最高。コックをはじめ皆日本の味に目を丸くしている。近所の人達も加わり、ロキシーに歌が出る。シェルパダンスで床を鳴らす。お互いの感謝の挨拶で、サーダーが「今回のメンバーは全身体調も良く、目的も達成できた上に、皆に気を使ってくれた。息子達にいろいろ指導もしてもらい感謝する。」と涙ぐんだ姿が印象的だ。10日間の付き合いであったが厳しい環境のなかで、お互いに思いやり、励まし合い、醸成された信頼感はすばらしいものだった。

ルクラの空港は5日間飛行機来ておらず怒鳴り合い、殴り合いも始まる大混雑だ。管制塔からカトマンドゥに連絡するという群集に、野次馬根性よろしく参加。なかなか眺めもGoo。その時谷間から迷彩模様の軍用機が着陸。暴挙に対する軍の出動かと全員青ざめるが、工事用のパイプを下ろして離陸して行った。この光景に空港長も苦笑いしながら、カトマンドゥに電話連絡。拍手が沸きあがる。サーダーの計らいもあったのだろうか、我々はその日の二番機に乗りカトマンドゥに降り立った。

初めてのネパールでの山行は大自然の壮大さは筆舌では表現しえない。目的も達成したが、それ以上にネパールの人達のやさしさ、思いやりで心の満たされた思いで一杯だった。

この体験ですっかりネパールが好きになった。二度目のネパール行きを考えはじめた頃か、ミカの会の会員募集の案内を見て入会。何度となくネパールに通っているが、今でも初めてのネパールでの体験は忘れがたい。

中学生だった少年スナムも立派な父親になっていることだろう。

## お茶会

11月15日2時よりお茶会は築田寺の本堂で行なわれましたが、美しい紅葉の庭がお茶会の雰囲気をついそう盛り上げてくれました。先生は会員の淺生さん。

お茶のいただき方、作法、いわれなど 分からないことは何でも質問しながらご指導していただき、とても良い勉強になりました。参加者は15名でした。



## 第6回ネパール教育支援チャリティボウリング大会

副理事長 加藤 誠一



平成15年10月23日、皆様のおかげで第6回のボウリング大会を開催することができました。参加人数126名36レーン、フルに使用しての賑やかな大会を開催でき、主催者を代表して心より御礼申し上げます。

今回のチャリティ金額は **¥186,097** です。

## 江戸川バザーにて

青沼 義信

9月7日江戸川区民館駐車場で恒例の江戸川バザーが開催されました。

私は初めての参加でしたので「江戸川バザー」が正式名称かと思っていましたが、リサイクル推進を目的としたイベントで「リサイクルワールドin東部」が正式名称でした。

当日松浦さん、小林(公)さんと7時45分頃新百合ヶ丘駅で待ち合わせ会場へ向かいましたが、着いたのが10時に近く、加藤(末)さん一人で準備しているのかといささか気をもみつつ会場入りしましたが、強力助っ人お2人のご協力でブース設営はほとんど出来上がり、加藤さん調達のリサイクル衣料品も既に持ち込んで頂いていたので、私たちは持参の民芸品や「小林フクロウ」・写真を並べるだけでした。

強力助っ人とは、加藤さんの友人でフラダンスの師匠・根本紗恵子さん、山仲間・伊藤優子さん(今回は来られませんでしたもう一方協力者がいらっしゃるそうです)で、リサイクル品の収集から運搬、陳列、バザーでの販売まで手伝って下さいました。その上洋服ハンガー掛けが不足したときには、物干し竿、竿掛けと竿掛け建て(コンクリート製)を自宅から運んで来られた時には、機転と実行力に頭が下がりました。今後は是非会員になっていただきたい方々である。紙面を借り御礼を申し上げます。

このバザーではリサイクル品が販売の主役ですが、なかには掘り出し物も結構あるようで、常連の人々は準備中の店をのぞき、お目当ての品をチェックしていました。

開場と同時に買いに来てすぐ持ち帰り、それを洗濯して午後から再び買いに来たと云う客、柄が気に入ったので多少の寸法は直して着ようと云う客、人にもあげたいからと「小林フクロウ」を2個買っていく客等々下町ならではの人の気さくさを感じられるバザーでした。

開会宣言の後、時折会場に展示してあるゴミ収集車で実演をしたり、清掃関係の職員がインスタントカメラで記念撮影サービスをしたり、ごみの分別や資源活用のPRなどでゴミに対する関心を訴えていました。

バザー成果は4万9千円余でしたが、100円単位のリサイクル品がほとんどですので満足すべきものと思いました。



## 能開大学祭に参加して

担当 加藤 雅子 中野 千恵子

11月2日、3日に相模原の西にある職業能力開発総合大学の学祭に参加しました。

2日は秋晴れの中、ハッシュドポテト、ミルクテイ、民芸品のネックレス、プレスレット、カレンダー等、大学の先生からのハーブの苗、いろいろのリサイクル品、ティシュペーパー、トイレトペーパー等を販売しました。

3日は生憎、雨が降ったり、やんだりの一日でした。テントの前にテーブルを出したり、入れたり。学祭の参加人数は昨年より、少なかった気がしましたが、国際の人達が、見に来てリサイクル品が喜ばれました。



10月11日（土）・12日（日）の両日、横浜国際協力まつり2003が例年どうり産貿センタービルで開かれました。ここは場所が遠いので搬入、搬出等に車を使わずバザーという条件ではとても不利です。又、11日は夢広場とも重なってお手伝いの人も限られていたこともあり、販売する品物も今年はいく少なくなりました。しかし、与えられた机は思ったより広くレイアウトに苦労しました。隣のタイの少数民族を支援しているグループは女性客が好み

ような手作り品の大小のバッグやシルバーの指輪・ネックレスなど品物が豊富でとても羨ましかったです。やはりバザー品は沢山ないことには売上がつながらないのだとしみじみ思ったことでした。ただ、ここのまつりは国際交流も大事な目的の一つですので、来店者はもちろん、出店者同士でもパンフの交換、お互いの支援内容の説明など結構やり取りがあり、パンフが足らなくなって青沼さんがコピーをしてくれた程でした。来年に向けて、それぞれのバザーの担当者がいつも同じではなくたまには代わって気分を一新させて行くのが良いとおもうのですが・・・

## 第6回夢広場開催

10月11日（土）ぼっぼ町田イベント広場にて、天気にも恵まれ時間いっぱい楽しい夢広場が開催されました。10月に入りバザーシーズン真っ最中ということもあり、参加団体が例年より少なかったのが残念ですが、各ブースの内容は充実していたように思います。夢広場は齋藤理事長が実行委員長を務め、市内、近郊のボランティアの交流を目的に開かれています。当会も第1回より参加、今回も予定の売上をあげることが出来ました。

特別企画の平和と共生をテーマにしたシンポジウムも充実したものとなりました。単なるバザーからより世界を意識し、町田市近隣の外国人の方々と共に考える夢広場へと変身の第1歩となりました。詳細は夢広場ホームページをどうぞ！<http://yumehiroba.jp>

### 【編集後記】

中間調査の報告を読ませていただきました。マオイストの影響は想像より大の様に感じます。安心して子ども達の支援が出来るよう祈るばかりです。総選挙後もイラクなど国際情勢は悪化しています。自衛隊の派遣はどうなるのでしょうか？年金は？そんなわけで平成15年も終わろうとしています。NPO法人を取得した当会は動揺せず、純粋にネパールの子供達の希望の星であり続けたいものです。 S.K

公式ホームページ <http://www.jedi.co.jp/mika>

『最新情報や案内をご覧になれます。会報もカラーで！』  
メールアドレスの登録は済みましたか？